



会社概要

国内・海外に張り巡らされた取材網と、歴史と伝統に培われた取材陣を擁する時事通信社は、ユーザーの目となり耳となって、必要不可欠な情報を収集しています。

- 代表取締役社長 中田正博
- 本社 〒104-8178
東京都中央区銀座5-15-8
- TEL 03-6800-1111(代表)
- 創業 1945年11月1日
- 資本金 4億9,500万円
- 従業員数 1,003人
- 事業所 国内80カ所、海外28カ所
- 特約外国通信社
トムソン・ロイター(イギリス)、AFP(フランス)、DPA(ドイツ)、ダウ・ジョーンズ(アメリカ)、EPA(欧州)、新華社(中国)、AGI(イタリア)、インターナショナル・メディカル・ニュースサービス(アメリカ)
- ホームページ <http://www.jiji.com>



受検者の7割以上が「役に立つ」と回答 ＝時事通信社、新入社員研修で活用

学校や企業など社会の各方面で、子ども達や若手社員の総合的な日本語力の運用能力の低下が懸念されています。では「言葉」を商品とするマスコミ界はどうなのでしょう。日本語検定の協賛会社で、新入社員が団体受検している時事通信社の堀義男人事部長に同社の取り組みをうかがいました。(インタビュアーは時事通信社記者 牧俊朗)



「日本語を使って物事を伝える仕事をする立場として、より意識を高めてほしい。」

堀 義男 人事部長

《団体受検のきっかけは何でしょうか》

新入社員研修の一環で2級の受検を始めました。メディアとしての通信社という仕事柄、編集面を例に挙げますと、取材相手の話を聞き、それを記事に仕上げ、正しく伝えることが仕事なので日本語とは切っても切れない環境にあります。

また、一社会人としてのマナーとしても身に付けておく必要もあると考えました。近年、日本語の乱れというのが話題になっていますが、母国語としての日本語を大事にして、正しく使い、正しく表現して欲しいと考えています。

《受検結果をどう判断していますか》

過去3年間の結果をみると、準認定を含んだ合格者と不合格者の割合はまずまずですが、純粋な合格者という数では不満が残っています。満足のいく受検結果でなかったため、その後再受検して合格したという社員もいます。

これは、「何となくそんな感じ」というあいまいな言葉の覚え方をしている者が多いからだと思います。日本語を使って物事を伝える仕事をする立場として、より意識を高めてほしいと思います。

《受検者の反応はいかがでしたか》

アンケート結果では、仕事上で参考になると回答した社員が7割以上います。中でも敬語、語彙などが参考になると回答していました。特に敬語については、取材や営業活動などで自治体の首長クラス、政界・経済界の幹部などのインタビューなどもあるため、必要性を強く感じているのではないのでしょうか。